国連女性機関（UN Women）主催

TICAD 8 サイドイベント「グリーン経済における女性雇用への投資」 における今福総合外交政策局参事官兼国連担当大使によるスピーチ

御出席の皆様、日本国外務省の今福です。UN Women が主催する TICAD 8 のサイドイベントにこのように参加できることをうれしく思います。

アフリカの国々は、旱魃や洪水を始めとする自然災害の影響を受けやすい脆弱性を有しています。他方で、若い人々に支えられたアフリカは、ダイナミックな成長が期待できる大陸です。

今、日本でも、また、世界でも、気候変動を喫緊の課題として、その解決を図るグリーン経済、すなわち、脱炭素社会に向けた新しいビジネスが注目されています。こうした分野に女性を積極的に参画させることは、誰もが生きやすい社会作りに繋がります。女性の参加率が高いほど気候変動の取組のパフォーマンスは高くなり、女性の活躍がゼロエミッション社会促進のカギであるとの分析報告もあります。

こうした中で、女性たちが起業を通じてグリーン経済に参入し始めています。日本では、低公害車両による運送とライフスタイルに合わせた働き方も組み合わせた女性起業家もいます。また、イタリアでも、廃棄される高級生地をリサイクルするファッションブランドを創設した女性の起業家があります。エチオピアでは、古タイヤをリサイクルして素敵な靴の生産をしている女性が、女性の雇用にも配慮したビジネスを行っています。

つまり、グリーン経済への女性の雇用へ投資することは、我々のより良い未来への投資であると言えます。これを推進するためには国や企業、また市民社会が協力することが不可欠です。また、STEM 分野における女性の教育や人材育成を若いうちから推進していく必要があります。さらに、教育のみならず、女性の雇用促進を可能にする包括的な取組が必要であり、家事労働を家庭内や社会が担うことや、女性のスタートアップ支援も重要です。

皆様もご存じのとおり、我が国は長年アフリカ諸国との関係を重視しており、その取組の一つが3年ごとに日本とアフリカで開催しているアフリカ開発会議、TICAD の開催です。

本年8月末にチュニジアで開催された第8回 TICAD では、岸田総理から、今後3年間で官民総額 300 億ドル 規模の資金を投入し、スタートアップ支援やグリーン分野での投資の促進、人材育成を行っていく考えを示しました。

アフリカでは今、若者を中心に社会的課題を現場レベルで直接的に解決するスタートアップの潮流が生まれています。日本政府としても、官民連携の下、日本からアフリカ展開を目指すスタートアップを支えていく考えです。

また、グリーン投資についても、「アフリカ・グリーン成長イニシアティブ」を立ち上げを表明しました。アフリカにおける膨大なグリーン成長の潜在性や、適応ニーズを捕らえ、日本の技術により、グリーン成長を加速させていきます。

さらに、人材育成については、新たに、女性も含めた若者をターゲットに、産業高度化に資する人材を育成する「未来の産業人材イニシアティブ」を立ち上げました。今後3年間で5000人に対する教育・研修の機会を提供するとともに、産業人材を含む幅広い分野で、今後3年間で30万人の人材を育成する予定です。

こうした取組に通底する考えは、「人への投資」というアプローチを取る、ということです。日本は、アフリカの課題克服に共に取り組むことにより、「共に成長するパートナー」でありたい、それを通じて日本も学び、成長していきたい、と考えています。これは、岸田総理が提唱している「新しい資本主義」を体現するものでもあります。こうした考えに基づき、日本は今後ともアフリカ諸国とのパートナーシップ及び女性のグリーン経済への参画を支援してまいります。

本日のイベントが、多くの人々が、グリーン経済への女性雇用の促進に向け、ともに協力を進めるきっかけとなり、実り多きものとなることを祈念しております。

(了)